

令和6年 9月13日(金)

あさひの日だまり

NO.18

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～修学旅行へ行ってきました～

政治経済文化の中心へ

先週の4日と5日の二日間、6年生と一緒に修学旅行へ行ってきました。修学旅行の引率もこれで何回目になるでしょう。ちょっと数えてみたら12～3回目くらいかなと思います。今回の引率はその中でも特別な意味を持っています。それは東京への修学旅行の引率が初めてだということです。これまではずっと中学校勤務でしたので修学旅行は京都奈良でした。「東京への修学旅行ってどんな感じなのかな」などと思いながら子どもたちと同じにどんどん期待と楽しみが膨らんでいました。

とはいいつつ、担任の先生方に比べたら緊張感は少ないです。担任として「子どもを預かっている」という緊張感はとても大きいものです。当然何か校長として解決しなくてはいけない問題が起きたときには対応するわけですが、何も問題が起きなければ子どもたちの後ろからその背中を見守っていればよいわけです。常に先を見て子どもたちを導いていく担任の先生の緊張感とは比べ物になりません。

「ワー、電車長〜い、どこが終わりなんだよ」と大きな声で驚きを表現していました。確かに長いです。飯田線では決して見かけません。これ一つとってもすごい経験です。

リムジンがバスの前を横切りました。「ワ〜、リムジンだ！すげ〜」確かに私たちの身の回りにリムジンは走っていません。子どもたちが驚くのは当然です。

バスの一番後ろに座席を用意してくれてありましたので子どもたちの頭が右に左に動く様子がよくわかります。誰か一人が窓の外の景色に驚きの声を上げるとみんなの顔がそちらへ向きます。そして「お〜」というため息がもれます。東京というところは本当に人を惹きつけるものにあふれています。



東京といえば東京タワー

昭和館は戦前・戦中・戦後の我が国の様子をスライド等で紹介されている施設です。疎開先の家で書いた当時の女の子の日記が展示されていました。一人の男の子がその日記に引きつけられて文章を読み込んでいました。みんなが移動した後も一人ですっと読んでいました。彼は何を感じていたのでしょうか。自分と女の子を重ね合わせて「もし自分がその時代にそこにいたなら」「女の子が現代を生きていたなら」と想像を巡らしていたのだと思います。



衆議院本会議場を見つめる

国会議事堂では政治家の方の歩くカーペットの上を歩きました。政治家の方が触った跡に手を重ね、じっとその手のひらをみつめている子がいました。よく「政治を身近に感じる」という話がありますが、これほど実感を持って清治が身近に迫ることはありません。

本校の子どもたちは心動かされる場面では本当に素直に声を出して思いを表現します。そんな素直な姿に、子どもたちの吸収力のすごさを何度も感じることでできる本当に楽しい修学旅行でした。楽しい思い出を作ってくれた6年生の皆さんと、6年の担任の先生に心から感謝です。

裏面は県教育委員会からの切実なお願いです。情報がありましたらどんなことでも校長までご連絡ください。